

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立厳木中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も新型コロナウイルス感染症の渦中にあり、知恵と工夫と判断を試された1年間であった。規模縮小や代替をせざるを得なかったが、状況判断を誤らずに実施できたことが学校文化の継承の点からも何よりだった。 地域との連携もさらに深まり、教育活動のPDCAという教職員の意識も高まった。「学校行事を参観する機会がほとんどなかったことが残念」という学校関係者の声に地域も含めた学校応援団の存在の多さがうかがえた。 取組内容や具体的取組は効果を上げていので今年度も継続し、学校教育目標「地域に根つき、笑顔と感動があふれる厳木中学校～主体的、協働的に取り組む生徒の育成～」を推進していく。
2 学校教育目標	地域に根つき、笑顔と感動があふれる厳木中学校～主体的、協働的に取り組む生徒の育成～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 環境を整え、生徒が主体的に学ぶ魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 生徒に活躍の場を持たせ、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。 「立腰教育」を柱として生活規律を確立し、自己指導力と規範意識を高める。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○校内研究及び校内研修の充実 ○家庭学習を充実させるための取組	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上 ○家庭学習の時間が一日1時間以上の生徒が60%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 各教科とも、各単元における「課題解決に必要な力」の明確化と学習評価を踏まえた授業計画を作成し授業を実施する。また、全職員が毎1回の研究授業を行うことで、授業の改善を図る。 Qフレックスと自学ノートの取組の推進。 生徒会による家庭学習を充実させるための取組。 （家庭学習に関する調査や集計発表、テスト予想問題の作成と実施など） 	A	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究計画に基づき、各単元における「課題解決に必要な力」の明確化と学習評価を踏まえた授業計画を各教科で作成し授業実践に努めている。また、全職員が1回以上の研究授業を実施し、授業改善に努めることができた。 生徒会と連携し、Qフレックスと自学ノートの取組を積極的に進めることができた。 生徒会を中心に、家庭学習に関する調査や集計発表、テスト予想問題の作成などの活動に計画的に取り組むことができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> Qフレックスへの取組の学年差が見られる。さらに家庭と連携して活動を充実させてほしい。 また、Qフレックスの質がさらに向上するように各教科で工夫して学力向上につなげてほしい。
	○生徒の学習状況や課題の把握 ○「知識・技能」の定着を目指した取組 ○「思考・判断・表現」の向上を目指した取組	R4年度の12月県調査において、県正答率や到達基準を1.00としたときの本校の正答率(2学年)が、R3年度の結果を上回る。R4年度の12月県調査において、本校の正答率(1学年)が、県正答率や到達基準を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習状況調査やNRTなどによる分析。 各教科における単元テストの実施。 QタイムとQテストの実施。 「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 12月の佐賀県学習状況調査についても各教科で分析を行い、生徒理解やその後の教科指導に活かすように努めた。 各教科とも単元テストを実施することができた。 QタイムとQテストの取組を計画的に実施することができた。 過去の学習状況調査問題を参考に、各教科で「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業を実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 過去問等を活用し、工夫して指導されていることが分かった。今後も生徒の実態に応じて指導してほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおける肯定的な回答をした生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 道徳に関するアンケートの実施 道徳科の授業力向上のための資料提供 学年PTAでの道徳教育に関する説明 保護者への保護者と連携したふれあい道徳の実施 学級通信等による道徳科の授業の紹介 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2月実施のアンケートでは、道徳科の授業の中で友だちと意見交流しながら自分のことについて考えることができた生徒はすべての学年で90%(1学年)とあてはまる11年27%2年31%3年32%(含む)であった。 各学年、23の内容項目すべてを取り扱い、生徒の道徳性を高めることができた。 1、2年生では学級通信を通して、道徳科の授業での取り組みや生徒たちの感想などを保護者に紹介することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の道徳性を高める指導をさらに工夫して取り組んでほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●職員に相談しやすいと感じる生徒率75%以上。	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施 6月と11月に担任との教育相談週間を実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 悩み事があるとき、職員に相談しやすいと答えた生徒85%という最終結果となった。残りの15%の子達をどのようにしていくかを今後とも考えていくことが大切である。 SCも連携して、悩みを1人で抱え込まないような環境づくりに取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員に相談しやすいと答えた生徒が85%もいることはすごいことだと思う。今後も生徒に寄り添った指導を行ってほしい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●朝食喫食率95% ●「健康に食事は大切である」と考える生徒90%	<ul style="list-style-type: none"> 保健だより、給食だよりやアンケートを通して朝食を食べることの意義の理解と啓発を行う。 栄養教諭と連携し、実践的な指導や調理実習等を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣アンケートを10月(1週間)に実施。10月の朝食をとって登校する生徒98.6%。 「健康に食事は大切である」と答えた生徒(2年)100%。 1月に1年生のそば打ち体験教室を行った。地域で生産される食材を目にし、触れることで、地域の食文化に関心を持つことができた。また、食育に関する知識を学ぶことが出来ていた。この取り組みを継続して行ってほしい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 朝食は一日の始まりとして大切なことである。今後も啓発活動を続けてほしい。 地域の食文化の一つであるそば打ち体験の活動は今後も続けてほしい。
	○健康意識の向上と体づくり	○体力・筋力が向上したと考える生徒が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> スポーツテストの実施 授業前の補強運動を実施 外部講師を活用した講話の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> 2月に実施したアンケート調査で体力の向上を感じている生徒は82%。睡眠不足だと感じている生徒は45%。十分な食事をとれているのは94%であり、どの項目でも数値が上がった。教員の言葉掛け等で健康意識や体力の向上が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 睡眠不足だと感じている生徒が45%と多く家庭の問題ではあると思う心配である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> 水曜日に定時退勤日の設定 長期休業中の学校閉庁日の設定 週2日以上部活動休業日の設定 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の平均は約26時間と昨年よりも減少した。 水曜日の定時退勤の推進の呼びかけや週2日以上部活動休業日の実施も行うことができた。また、長期休業中の学校閉庁日を計画通りに実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の時間が少ないことはいいことだと思う。また、年休も取りやすい職場であることはいいことである。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80パーセント以上	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援に関する研修会 個別の支援計画の記入についての研修会 情報機器を用いた支援に関する研修 特別支援学級在籍生徒の進路保障についての研修会 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修会を開くなどの取り組みにより、生徒への対応の仕方を学習し、特別支援教育に対する理解が深まった。 個々の生徒の能力や希望をもとに、進路保障につなげることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が特別支援の研修会に参加して理解を深めることは大切である。今後も続けてほしい。
○進路指導の充実	○生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒が中学校3年生で75%以上、全体で72%以上	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習を中心に、全ての教科やふるさと探訪や職場体験、地元企業訪問等の郷土学習を通して郷土を愛し将来の目標に向かって自ら考える時間を確保する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢や目標を持っている」について、3年生が96%、全校で84%が肯定的な意見を持っていた。2学期よりも3学期の方がより数値が向上している。 ふるさとと伝統と文化を大切にしたり、地域の人と一緒にふるさとの行事に参加したりしている」について、3年生は73%、全校で77%が肯定的な意見を持っていた。2学期よりも若干低下しているが、地域と関わる行事が少なかったことと、自分自身の進路について精一杯だったことがうかがえる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験ができなかった代わりに、職業を講話を実施され、子どもの職業選択の視野の広がりがつながるので良かった。
○生徒会活動の活性化	○生徒に学校行事や生徒会活動の中で活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。	○「専門部や係の仕事や責任をもち取り組むことができている」と「自分は誰かの役に立っていると思う」について肯定的な回答をした生徒70%以上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒集会、生徒総会、新入生対面式等の行事や専門部の活動の中で活躍する場をたくさん設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を調べるアンケート項目で2月には79%と22%の生徒が肯定的に答えた。昨年度、肯定率が低かった2年生においても、どちらも向上が見られ、特に2つの項目に関しては、59%から72%と大きく向上が見られた。来年度も、生徒会活動を中心として、活動する場面を多くもち、更に自己肯定感を高めていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より「自分は誰かの役に立っている」という自己肯定感が高くなったことはいいことである。
○地域連携	○いきいき学ぶからつ子育て事業による教育活動	○生徒満足度について肯定的な回答(「楽しかった」「役に立つ」)をした生徒80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 1年生のさばき方教室の実施 2年煮魚教室の実施 3年食育に係る料理教室の実施 全学年朝の読み語り 	A	<ul style="list-style-type: none"> 予定の各種行事を形を変えながらも実施につなげることができた。いきいき学ぶを活用した教育活動への満足度は、1年93% 2年100% 3年86% 全校94%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍にも対応して、子どもにいろいろな体験をさせてもらっているの感謝したい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも改善した項目もあり、教師の努力と知恵が生かされた活動を行うことができた。また、今年度もコロナ禍で中止や規模縮小を余儀なくされたが、形を変えながらも多くの取組を実施することができてよかった。 次年度も生徒たちの学力向上を目指した指導方法の工夫や悩みを持つ生徒への対応に力を入れた取組を行ってきたい。 地域と連携した体験活動については一定の成果が出ており、今後も継続するとともに、コロナ禍の5類引き下げに伴い、地域に開放された学校づくりを進めていきたい。
5 総合評価・次年度への展望	